

「ひまわり」

撮影 勝谷鐵幸



日本共産党は、わが国の進歩と変革の伝統を受けつぎ、1922年7月15日、科学的社会主義を理論的な基礎とする政党として創立され、今年7月、創立98周年を迎えました。「国民の苦難あるところに共産党あり」、立党の精神は新型コロナウイルス危機のもとでも発揮されています。2年後の100周年に向けて、強く大な党をつくるために、みなさんのご支援をお願いいたします。

2020年7月15日

祝 日本共産党 創立98周年

国民が幸せだと感じる国づくりを

阿古曾町 木下 緑

2020年、今年はコロナウィルスで世界は大変なことになっている。誰が予想したであろうか。日本では落ち着きつつあるが、人々の生活は変化した。新しい時代がきたのではないだろうか。政治にも新しい風をふかせ変化してほしいものだ。

安倍首相の支持率は下がっている。これが国民の声だ。国民の声を聞き、行動してくれるのは日本共産党ではないだろうか。これからの新しい日本、国民が幸せだと感じる国づくりをしていくためにも日本共産党が躍進し、新しい風をふかせ時代の先頭に立ってほしいものだ。



日本共産党に入って60年 政府をめざすほど大きく深くなった

江島本町 辻井良和

第2次世界大戦(太平洋戦争)が終わって15年経った1960年、日本がアメリカのために一緒に戦争をする事を求められた日米安保条約の延長が国会に提出され、国民の多くが真の独立を求めて大きく運動が広がりました。この大運動の中で、日本共産党の主張が一番正しいと感じて党に加わりました。当時は3万人の組織でした。

志摩の郵便局にいて、同じ町の小学校に勤務されていた落合郁夫先生と協力して、第1回原水禁世界大会への平和行進を志摩町から大王町へ50人ほどで10キロ歩きました。郵便局の仲間を誘って青年婦人部を作ったり、離れた職場の仲間に「交換日記」を回して意見を聞いたりしました。

あれから60年、日本共産党は大きくなり「野党共闘の政府」を実現しようと頑張っています。この運動にお役に立ちたいと頑張れるのは嬉しいことです。



コロナ後の学校

5月下旬、学校が再開された直後は、クラスを半分に分けて、午前と午後に分散登校を実施するところが多かった。そこでは一クラス20人以下で授業が行われた。午前と午後、同じ授業を2回おこなう先生の負担は大変だったが、20人以下の教室はゆとりがあり、子どもたち一人ひとりの顔がよく見える。「やっぱり少人数学級はいいなあ」とみんなが思ったことだ。

日本共産党は6月2日、「学校再開にあたっての緊急提言」を発表し、教員10万人増とそれを活用して子どもに少人数学級をプレゼントしようと呼びかけた。世論も広がっている。全国連合小学校長会会長は「ウイズコロナ時代では20～30人が適当」と述べ、中央教育審議会

の部会でも複数の委員が少人数学級に言及した。現在、国の制度は小1～2は「35人学級」で、あとは高校まで全て「40人学級」。欧米は20～30人学級であり、日本は明らかに遅れている。

6月28日付「赤旗」によれば、10万人教員増にかかる予算は数千億円で、2次補正予算の予備費10兆円の数%にすぎない。この措置を来年度以降恒常化しても、日本の教育予算の水準(対GDP比)は2.9%から3.0%強となるだけで、経済協力開発機構(OECD)加盟国平均の4.0%にまだまだ及ばないという。

コロナを経験した今、学校は生まれ変わらなければならない。世論を広げ、野党の力を束ねて政府に実現を迫ろう。

(寺家 吉田一男)



日本の農業を大事に！

様々な分野から、コロナ後の社会のあり方が発信されていますが、私が今とても気になることの一つが食糧の問題です。今回の自粛生活で、食べ物が手に入らないとまではならなかったのが良かったですが、自粛生活が半年一年と長引けば、スーパーから食糧がなくなるかも知れませんか？何しろ日本の食糧自給率は37%(2018年)、食べ物の3分の2くらいは、外国に頼っているのですから。今、日本中で耕作放棄地が増えています。豊かな日本の大地を荒れさせて、外国産の作物を輸入し

ているのです。これも経済優先(外国産の方が安い、儲かる)だからでしょうか。今後、世界の人口がもっと増えて食糧不足になると言われています。世界的な気候変動で減産になる地域も出てくるかも知れません。目先の損得でなく、国の未来を考えて、国民が食べるものは、国内で調達できる国にならなければと思います。そのために、農家への支援をうんと増やしてほしい。若い人たちが農業をやってみたいと思えるような施策をどんどん出してほしいと思います。(伊船町 石田喜代子)



国からの交付金10億円の使い道に、市民の声を

鈴鹿市議会議員 石田秀三

国民一人10万円の「特別定額給付金」の支給手続きは、6月末で8万1千世帯を超え、全世帯の9割以上に振り込まれました。市役所の総力をあげた仕事で、5月下旬から1ヶ月余りで全市民へ届けるメドが立ち、喜ばれています。

コロナ感染対策として国民の皆さんに、行動の自粛や休業、休校措置など、生活と仕事のあらゆる面に影響が及んでいることへの国からの補償と協力へのお礼として、まずこの10万円支給が総額200億円。また営業自粛の要請にこたえた店に「協力金」(県25万+市25万円)総額3億円、小規模事業者の家賃補助(20万円)総額1.6億円、続いて消費向上のため「プレミア付商品券」

の発行に2億円、など市民を支援する事業が進んでいます。国からの雇用調整助成金、持続化給付金なども手続きがされていますが、いつ収束するのか先の見えないコロナ禍を越えていくには、さらに多くの支援が必要です。

国の第2次補正予算で計上された「地方創生交付金」2兆円の、鈴鹿市への配分が約10億円と6月末に発表されました。市は7月中にこの10億円をどう使おうか、実施計画をつくります。市民生活や営業を支えられる計画になるように、私たちの声を市に届けましょう。



未来をどう作っていくか？

外出自粛期間中に何冊かの本を読みましたが、下記2冊が読みやすく、近未来社会を予感させる刺激的な内容でしたので紹介します。

【1】「未来への大分岐～資本主義の終わりか、人間の終焉か？」(集英社新書)、若き経済思想史学者・斉藤幸平さんが、①アメリカ合衆国の政治哲学者でウォール街占拠運動をはじめとする社会運動の理論的支柱となっているマイケル・ハート、②史上最年少で権威あるボン大学哲学正教授に抜擢された哲学者マルクス・ガブリエル、③『ポストキャピタリズム』で資本主義は情報テクノロジーによって崩壊すると主張し、次なる経済社会への移行を大胆に予言する経済ジャーナリストのポール・メイソンの3人との対談を収録している。対談形式なので読みやすいが、内容は深く、するどい。また、対談のベースに「マルクス主義的社会主义」への共感があるのも興味をひきます。この地球に住む70億の人間のうち14億人がマルクス主義的ヒューマニズム(新しい社会主義)

を必要としている。中国の公式イデオロギーはマルクス主義的ヒューマニズムの否定と断定。

【2】「水道、再び公営化！欧州・水の闘いから日本が学ぶこと」(集英社新書)、著者の岸本聡子さんは阿姆斯特ダムを本拠地とする政策シンクタンクで、新自由主義や市場原理主義に対抗する公共政策、水道政策を調査・研究し、世界中の市民運動と自治体をつなぐ役割もしている。私たちが政治に無関心であると、大資本、富裕層のやりたい放題で、民主主義は形だけのものになっていくと、世界の具体的運動を紹介している。

欧米の若者を中心に、社会運動に依拠した「下からの」コミュニズム、新しい社会主義をめざす運動が広がっていることに未来への希望を感じます。鈴鹿でもそうした運動をすすめたいですね。

(岸岡 橋詰圭一)



共産党ってすごい！ SNSの力もすごい！

鈴鹿市議会議員 高橋さつき



自粛期間中にTwitter、インスタを少しずつ始めてみました。使いこなすにはまだまだですが、面白いんです。共産党のキレのいい質問、国会中継のメインを上手に凝縮した投稿があったり、芸能人の政治への意見、想いを見れたりと時間を忘れて観てしまいます。スマホ老眼アラートが発令されそう(笑)

外出できない時期、国会を見る若い人が増え、質問に対し答弁のちくはぐさに気づいた人や、国会中継にハマった人、共産党に偏見を持っていたけどすごくまっとうな意見だった、一番国民に寄り添っているのは共産党だと気づいた人もたくさんいたようです。その声はTwitterにあふれていて一人でスマホ見てニヤニヤしていました。

『志位さん』『困ったときは共産党に相談しよう』とか、志位さんが提案した『子どもたちに少人数学級をプレゼントしよう』など、キャッチフレーズもできています。今までネットで共産党の関係するイイ意味でのキャッチフレーズがあったでしょうか？そこから広がり、共産党に相談をして助けられたたくさんエピソードもあがっていて、

感動しました。

立党の精神、本当に国民の苦難軽減のために活動してるなあ、共産党ってすごい！と誇らしく感じるとともに、思いを共有し繋がっていくSNSの力にも驚きました。

ネット上で『自粛と補償はセット』の声が広がり、一律10万給付金、雇用助成金の上限額の引き上げ、家賃支援、学生支援給付金、PCR検査の拡充など国民の切実な声が政治を動かしています。検察庁法改正案も廃案、そして黒川検事長の辞任、イージス・アショア配備計画も国民の怒りによって停止させました。

何でも強行の安倍政権になってから、こんなに国民の怒りで変えることが出来たのは初めてではないでしょうか。声を上げれば政治は動く！変わる！今、国民は危機に対応できないこんな社会でいいのかと怒り、考え始めています。新型コロナ感染症は人の命よりも儲けを追求する資本主義の社会を見直すきっかけを作ってくれたと思います。



行政の支援を、検査を早く ～コロナ禍の介護現場～

コロナの収束の気配はなく不安な日々を送っています。

私の勤務している介護施設ではコロナの感染対策として利用者さんとの対面を避けてビニールカーテンを作成したり、消毒用のアルコールを作ったりして施設でできる範囲の感染予防に心掛けています。職員には朝の健康チェックを行っています。幸い利用者さん、職員に感染はありません。ほっと一息ついて今思うことは小規模施設で集団感染が起これば、職員が出動できず医療的なサポートもなく介護崩壊になってしまうのではないかと危惧しています。病院では介護が必要な人が受け容れる余裕がない上に要介護の人は慣れない環境に適応しづらく症状がなければ介護施設にいた方がいいのかなと思ってしまいます。医療の面では発症から感染までの診断と迅速な検査態勢が集団感染を防ぐためには不可欠ではないでしょうか。また現場で介護に携わる職員に対しては、危険手当等を支給サポートを事業者の努力だけでなく国や自治体の行政支援のはたらきが今こそ声を上げるべきだと思います。いい介護がしたい気持ちは一つです。

(野町 滝沢三千代)



雇い止めに立ち向かう ～鈴亀ユニオン～

日本に来て15年になる日系ブラジル人のKさんが、コロナの影響を受けて派遣会社から雇止め(解雇)の通知を受けました。6月7日の労働相談会で鈴亀ユニオンに出会い、組合に加入。そして「①雇止め撤回・雇用継続 ②休業補償100%支給」を求めて会社との団体交渉に臨みました。会社側はプロの交渉人と思しき人物が応対し、組合側の要求をことごとく撥ねつけました。

家のローンを抱え、二人の子供を育てるKさんにとって、今回の派遣切りは明日からの生活を脅かすものだと、交渉では繰り返し訴えましたが、そのようなことに耳を傾ける相手ではありません。しかし粘り強い交渉の結果、およそ10万円の和解金に該当する金額を会社側は出すことを認めました。Kさんは「あきらめずに組合に相談してよかった」と喜んでくれました。不十分な結果でしたが、たった一人のために団結して立ち向かうことの大切さを改めて感じた今回の交渉でした。(白子 向井正美)



派遣会社との団体交渉(6月17日)向こう向きが会社側交渉人

『みんなで子育て』の世の中に！ コロナ後の今だから！

なかなか先の見えないコロナ現状で不安な毎日です。しかしこの何か月かで国の痛んだ部分が大きくクローズアップされました。今までいろんなメディアの報道等で国民に隠された問題点がよく見えるようになってきました。

緊急事態宣言が出され自粛が言われる中、保育所は開所。リスクを負いながらも普段の感染症対策と全体での集まりに工夫したり、職員も園外での感染症対策を心がけるなど、子どもたちの普段の生活が守られるように心がけてきました。またユーチューブで動画配信したり、手紙を書いたりして、お休みの子たちにも変わらない生活をと心がけてきました。

国はこの間の運営費を減らさず支給というけれど、子どもの生活を守り、休めない保護者の労働を支えてきた保育所なのだから、あたり前の支給なのではないでしょうか。むしろ特別手当が必要な職種です。

今は制度も変わり、自治体の責任でいろんな対策ができます。四日市は今年度より保育士の給与の公私間格差是正の補助金を出しました。声を上げることは大切です。子育てしやすい市は、誰もが住みやすい市でもあります。

コロナ後の今だからこそ、個人の責任にせず、知恵を出し、『みんなで子育て』の世の中にしていきたいですね。(神戸 安井京子)

